

## 耐震診断・補強設計結果概要表

I-1 評定の範囲	1.診断 2.診断+補強設計 3.補強設計			
I-2 建物名称	<p>概要表には、報告書本文に記載されている内容の抜粋およびまとめを記入する。</p> <p>本文に記載のない事項を概要表にのみ記載することはしないで下さい。(概要表は報告書の内容をまとめた資料です。)</p>			
I-3 所在地				
I-4 診断担当事務所名				
I-5 竣工年(建設年次)				
I-6 設計図書の有無				
—無い場合の処置方法—	意匠図:1.有/2.無( ) 構造図:1.有/2.無( ) 構造計算書:1.有/2.無( ) 地質調査書等:1.有/2.無( )	図書が無い場合には、どう対応したのかを必ず記載して下さい。		
I-7 建物の用途				
I-8 建物階数	地上__階、地下__階、塔屋__階			
I-9 構造種別	1.RC造、2.S造、3.SRC造、4.その他( )			
I-10 床面積・ 建物重量	階数	床面積(m <sup>2</sup> )	建物重量(kN)	単位重量(kN/m <sup>2</sup> )
	合計			
I-11 基礎形式	1.直接支持、2.支持杭、3.摩擦杭、4.混用( )			
I-12 診断次数	1.第1次診断、2.第2次診断、3.第3次診断			
I-13 構造耐震判定指標	(診断) $I_{SO} = \underline{\hspace{2cm}}$	$C_{TU} \cdot S_D \geq \underline{\hspace{2cm}}$	<p>診断のみの場合は、補強は削除して下さい。</p>	
	(補強) $R_{SO} = \underline{\hspace{2cm}}$	$R_{C_{TU}} \cdot S_D \geq \underline{\hspace{2cm}}$		
I-14 使用ソフト				
I-15 適用基準				
II-1 建物の特徴	スパン数:長辺方向__×短辺方向__ 平面形状:1.長方形、2.L型、3.その他( ) 立面形状:1.ほぼ整形、2.不整形			
II-2 構造上の特徴 (詳細に記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の平面形状、立面形状の特徴。</li> <li>・偏心率や剛性率の影響がある場合にはそのことについて。</li> <li>・隣棟との関係について。(隣棟の構造と階数、Exp.J間隔、間隔と高さの比)</li> <li>・建物本体以外に、非構造部材や設備などについて</li> <li>・周辺地盤(崖地、液状化の有無、盛土)の状況など</li> </ul>			
II-3 現地調査結果 (まとめを記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特徴的な結果について記載して下さい。</li> <li>低強度コンクリート、施工不良、設計図との差異、常時荷重時の不具合など</li> </ul>			

(耐震診断の概要)

Ⅲ-1 診断次数	第__次診断法による( $I_{SO} = \underline{\hspace{2cm}}$ 、 $C_{TU} \cdot S_D \geq \underline{\hspace{2cm}}$ )									
Ⅲ-2a 診断方針、 モデル化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診断基準や改修設計指針に示されていないような”特別な項目”について記載する。(二次壁の扱い、ゾーニング、下階壁抜け柱、第2種構造要素、柱梁接合部、地震時付加軸力など)</li> <li>・現地調査結果で問題のあった事項について診断ではどう対応したのかを記載する。</li> <li>・塔屋、地下階、高架水槽、片持梁、コンクリートブロック帳壁、非構造部材等、その他の診断方法および判定について記載する。</li> <li>・ゾーニングをしている場合にはゾーニング図を添付。</li> </ul>									
Ⅲ-2b 外力分布の補正係数	1. $(n+1)/(n+I)$		2. $A_i$							
Ⅲ-2c 平面・断面剛性の算出	1. 診断基準による		2. $F_e, F_s$ を使用(現行設計基準による)							
Ⅳ-1 鉄筋種類と径	主筋:					せん断補強筋:				
Ⅳ-2 鉄骨種類と形状										
Ⅳ-3 地盤	地耐力									
Ⅳ-4 杭	杭種別及び径									
Ⅳ-5 コンクリート強度 ( $N/mm^2$ )  設計基準強度 $F_c = (\underline{\hspace{2cm}} N/mm^2)$	階	供試体数 $n$ (本)	平均値 $X_{mean}$	標準偏差 $\sigma$	推定強度 $\sigma_B$	診断採用値 $\sigma_{BD}$				
Ⅴ-1 耐震診断の結果	方向	階	$E_o$	$S_D$ or $1/F_{es}$	T	$F_u$	$F_u'$	$I_s$	$C_{TU} \cdot S_D$ or $q$	判定
	長辺 (X)									
	短辺 (Y)									
Ⅴ-2 診断結果の所見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支配的な破壊モードがどうなっているのか。</li> <li>・<math>I_s</math>が低くなっている要因について。 偏心率が大きい、剛性率が小さい、下階壁抜け柱、経年劣化が大きい、極脆性柱が第2種構造要素であるなど。</li> <li>・塔屋や地下階を別途診断している場合はその結果。</li> <li>・その他検討事項、片持部材や非構造部材、設備機器などの診断結果。</li> <li>・補強設計時の留意事項。など</li> </ul>									

(耐震補強設計の概要)

VI-1 補強目標値	$R_{ISO} = \text{_____}$ 、 $R_{CTU} \cdot S_D \geq \text{_____}$									
VI-2 耐震補強計画、 補強後のモデル化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補強の方針について。 補強工法、耐力の増加、靱性の向上、靱性能の改善など。</li> <li>・耐震補強以外で改修工事がある場合にはその扱いについて。</li> <li>・補強工事時の留意事項。</li> </ul> <p>・補強後にモデル化やゾーニングなど変更した計算仮定を記載して下さい。</p>									
VI-3 耐震補強部材と数量	方向	階	鉄骨 ブレース	壁増設	増し 打壁	開口 閉塞	柱補強	構造 スリット		
	長辺 (X)									
	短辺 (Y)									
	その他 部位									
VII-1 補強設計後の 耐震診断結果	方向	階	$E_o$	$S_D$ or $1/F_{es}$	T	$F_u$	$F_u'$	$I_s$	$C_{TU} \cdot S_D$ or q	判定
	長辺 (X)									
	短辺 (Y)									
	VII-2 補強結果の所見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支配的な破壊モードがどうなったのか。</li> <li>・補強により改善された内容について。</li> <li>・塔屋や地下階を別途診断、補強している場合はその結果。</li> <li>・その他、片持部材や非構造部材、設備機器などの補強結果。 など</li> </ul>								